

【院長挨拶】

COVID-19の第6波は、新規陽性者が完全に減らず高止まりしたままで、次の第7波に移行するのではないかと危惧されますが、感染症の専門家でもなかなかこの先の確たる見通しは立たないようです。これからも突然出現する変異株が大流行を引き起こす可能性も否定できません。感染の波ごとに流行には各々異なる特徴があるように思われますが、基本的には検査・隔離・治療体制の確立が望まれ、コロナが一日も早く「普通の病気」に近くなることを願うばかりです。



新年度になり、今年も各職種の新入職者を数多く受け入れました。なかんずく3名の初期臨床研修医をはじめ、診療部では定期の人事異動とともに森本レポートにあるように、新たに入職した多くの先生方からメッセージを頂いています。これからも地域の医療・介護はもちろん、行政や地域社会に携わっておられる皆さん方と様々な局面で連携ができればと願っています。地域の患者さんのために引き続き努めていきたいと考えます。本年度もよろしくお願い致します。

寺柿 政和

GE社のCTを更新いたしました。

3月25日放射線科におきましてCT装置をGE社製 Revolution Ascend に更新いたしました。Revolution Ascend は患者様ひとりひとりに最適な検査を実現するために、Ai技術ならびに自動化技術を取り入れた最新のCT装置です。検査時間を短縮し、患者様に負担の少ない検査を提供することが可能です。



3月28日より稼働しておりますので、地域医療の機関の先生方におかれましては必要時に是非ご利用いただければと思います。

日総研主催 第7回接遇大賞表彰式・事例発表の収録が行われました。

日総研主催の第7回接遇大賞において当院5南病棟が受賞し、日総研のページにて公開されました。

<https://www.nissoken.com/setsugu/>

本大賞の表彰式・当院の取り組事例発表

の動画は、上記ページにてオンデマンド

配信されております。また、同大賞は全国で3施設受賞し、日総研出版の書籍「病院安全教育」6・7月号(6月20日発売)で掲載されます。



2022 年度は下記のような異動となりました。

診療科	入職	退職
消化器内科	高橋 駿介、小西 勝也	藤川 佳子、寺川 洋子、 三崎 絢子、柳田 剛志
循環器内科	小野田 真保	
呼吸器内科	久保 寛明、高木 康裕	武田 倫子、杉谷 新
外科	南原 幹男	三浦 光太郎、稲津 大輝
整形外科	大平 千夏、中井 智也、 岸 裕貴、佐藤 雅俊	白川 裕一朗、森山 美知子、 河崎 顕治、福山 建太郎、 澤田 啓、岡 誠
救急・総合診療科	加賀 慎一郎	
放射線科	杉本 倫子、田中 里可子	丸田 初夏
麻酔科	池上 直行	

4 月からの外来担当表は当院 Web 等をご参照ください。

医療法人橘会 東住吉森本病院 ホームページ:<https://tachibana-med.or.jp/>

診療部各科医師 就任のあいさつ

【呼吸器内科 医長あいさつ】

令和 4 年 4 月より当院の呼吸器内科に赴任してきました久保寛明と申します。私は平成 23 年に大阪市立大学を卒業後、大学病院や関連病院で呼吸器診療に従事して参りました。当科で診療する疾患は肺炎、肺癌、COPD など世界的にみて死因の上位にくる疾患が多く、超高齢社会における地域医療で需要が多い領域だと思います。



また、近年アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性が叫ばれており、肺癌だけではなく COPD や間質性肺炎などの慢性呼吸器疾患の患者様に対しても丁寧な説明と患者様に寄り添った医療を心掛けて参ります。

当科は引き続き 3 人体制ですが、微力ながら地域医療のために尽力させて頂きまますので、どうぞよろしくお願い致します。

【外科 医員あいさつ】

令和4年4月より外科医員として着任しました南原幹男と申します。平成21年に奈良県立医科大学を卒業し、市中病院での5年間の勤務を経て、大阪市立大学消化器外科に入局致しました。大学病院での勤務後、3年間の市中病院での勤務を経て、昨年度までの4年間は再度大学病院にて消化管悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術の研鑽を積んでまいりました。



特に胃癌の腹腔鏡手術についてはある程度の執刀数も経験しております。大学病院と市中病院での両方の勤務経験を活かし、悪性腫瘍に対する手術のみならず、救急疾患への迅速な対応などを目指し尽力していく所存であります。地域医療の一助となるよう精進いたしますので、宜しくお願い申し上げます。

【整形外科 医員あいさつ】

この度、整形外科の医員として着任いたしました谷浦圭（たにうらけい）と申します。平成14年に和歌山県立医科大学を卒業後、大阪市立大学医学部整形外科に入局し、関連病院の診療に従事してまいりました。このたび、昨年11月より東住吉森本病院で勤務させて頂くことになりました。



今後、急性疾患・変性疾患とともに、高齢化社会に伴う整形外科疾患の需要にこたえるべく、他科と連携をとりながら、協力を仰ぎつつ、診療を行っていきたいと考えております。地域医療の一助となりますよう尽力させていただきます。今後とも宜しくお願いいたします。

【救急・総合診療科 部長あいさつ】

2022年4月に救急・総合診療センターに部長として着任した加賀慎一郎と申します。2006年に現大阪公立大学医学部を卒業後、同附属病院にて卒後臨床研修を経て、同大学の救急医学に入局、大阪市内での3次救急診療を主に従事していました。COVID-19の世界的感染拡大により、医療従事者の健康維持と感染対策を図りながら、急増した発熱を主訴とする救急搬送事案に応需すべく、現在も各医療機関は頭を悩ませている状況と思います。COVID-19の終息の兆しはなく根本解決の目途もたない状況ですが、東住吉区における2次救急医療機関として、今できることを1つずつ確実にこなしていくことで、よりいっそう信頼のある地域に根ざした救急医療機関となるよう努力してまいります。



【放射線科 医員あいさつ】

令和4年4月より放射線科に着任いたしました。専門は放射線画像診断全般です。平成24年に大阪市立大学放射線診断・IVR教室に入局して以降、大学附属病院や市中病院で研鑽を積んでまいりました。

着任してまず一番に、読影エリアに臨床の先生方がひっきりなしに足を運んでくださる様子に驚きました。画像診断は病因究明・治療方針決定に重要な役割を果たすため、これまで積み重ねた経験と臨床医から得られる情報を元に、そして日々情報をアップデートする努力を惜しまず、読影に臨む所存です。これまで培われた風通しのよい読影室で、患者さんのために迅速かつ丁寧な読影を心がけ、地域医療に貢献できればと思います。 杉本 倫子

【麻酔科 医長あいさつ】

このたび麻酔科医長に着任いたしました池上直行と申します。平成2年に京都大学を卒業後、京都大学胸部疾患研究所外科に入局し9年間呼吸器外科医として勤務したのち麻酔科に転向し、以後大学及び関連病院にて診療に従事して参りました。ご縁を得て今年4月より東住吉森本病院で勤務させていただくこととなりました。



新たな知見や技術、薬剤の進歩と相まって麻酔の安全性は近年目覚ましく向上してきました。当院手術室には最新の麻酔器を始めとし充実した設備が整っておりますが、それを用いるのが人間であることは昔も今も変わりありません。大切な患者様を安心してお任せいただけますよう、他職種スタッフと共に安全第一に努めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

■ 病院理念 ■

1. 患者さんの立場に立った、対話のある医療を提供するために努力します。
2. 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
3. より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

■ 基本方針 ■

1. 「患者参加型」の安全で質の高い医療を提供します。
2. 地域完結型の医療サービスを提供します。
3. 地域の予防医療の啓蒙に貢献します。
4. 自己実現が出来る職場環境の確保を目指します。

■ 患者さんの権利 ■

1. 個人の尊厳の保持
2. 良質な医療を平等に受ける権利
3. 十分な説明を受ける権利
4. 検査・治療を自ら決定する権利
5. 医療について知る権利
6. プライバシーの保護
7. セカンドオピニオンを受ける権利

東住吉森本病院 地域医療連携センター

診療・検査・入院のご依頼、その他お問い合わせ

(地域医療機関・施設さま専用)

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

【受付時間】 平 日 9：00～20：00

土曜日 9：00～17：00

地域医療連携センター長 大場 一輝